

厚生労働省老健局  
「地域包括ケアの実現に向けた  
地域ケア会議実践事例集」  
(H26.3) 引用

### ③『小地域ケア会議』の成果と今後の課題

#### 成果

地域の現状を肌で感じている地域包括支援センターが主催することで、よりテーマや課題に適した関係者を選定することができ、その開催を積み重ねることで地域資源とのつながりや相互理解が得られています。また、『小地域ケア会議』で顔の見える関係が構築され、さらにそこから他の関係者の紹介などにもつながっていきます。

『小地域ケア会議』において、「この人の生活課題をどうするか」という検討と判断をすることにより、地域において同様の事例が発見された際の対応の平準化へと繋がっています。

#### 今後の課題

『小地域ケア会議』は、東西それぞれ3地域包括支援センターの協力で運営されていますが、センター間の連携や役割分担を調整しながら開催していくことが求められています。また、現状は管理者が中心の企画となっていますが、今後はどの職員が担当しても開催していけるような仕組みが必要になっていきます。

**実施者コメント**  
その仕組みの一環として、保険者（基幹型地域包括支援センター）はセンター職員を対象とした研修会の実施や情報共有の機会を持つようになっています。

## 地域包括ケアの実現に向けた地域ケア会議の構築

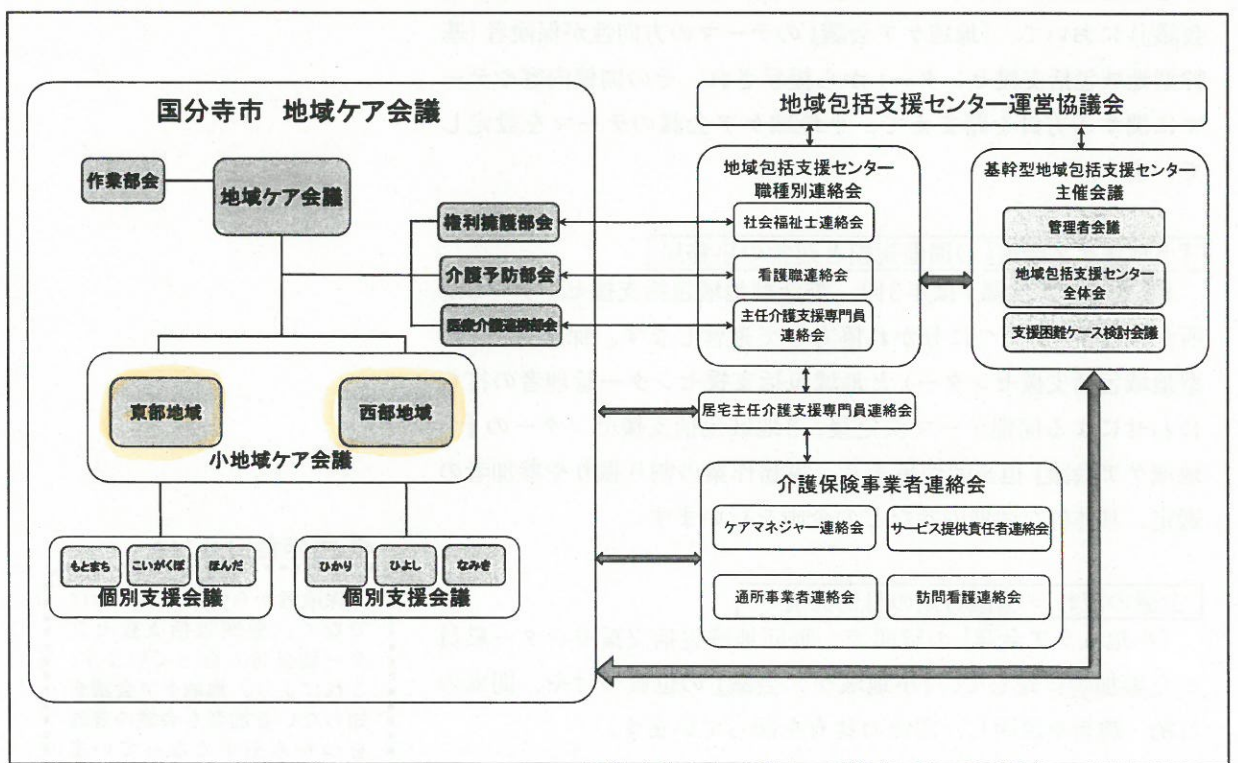
### 1. 国分寺市の地域ケア会議の全体像

#### 地域ケア会議の目標

地域ケア会議は、各圏域の個別事例の積み重ねと、圏域を抜けていながらの集約により、地域に共通する課題を発見し、共通していくための場として機能することを目標としています。市内に既存する取り組みを意識し、その中における一部としての地域ケア会議が構築されています。

#### 地域ケア会議の構成

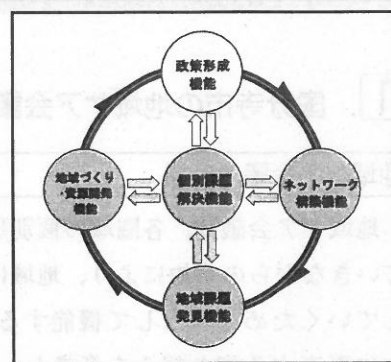
国分寺市の地域ケア会議は、市町村レベルで開催される『地域ケア会議』を親会議として、日常生活圏域レベルで開催される『小地域ケア会議』、個別レベルで開催される『個別支援会議』（個別のケース支援に関して現場レベルで検討する様々な会議の総称）で構成されています。また、特徴的な点として、「地域ケア会議権利擁護部会」「地域ケア会議介護予防部会」「地域ケア会議医療介護連携部会」の3つの部会を専門レベルの地域ケア会議として位置づけ、親会議である『地域ケア会議』と有機的な連携が図られています。



## 2. 日常生活圏域レベル地域ケア会議

### (1) 小地域ケア会議

主催	開催頻度
地域包括支援センター	定例(年3回開催)
対象範囲	会議参加者・司会役
日常生活圏域レベル	随時選定・随時選定



#### ①『小地域ケア会議』の目的・目標

『小地域ケア会議』の検討テーマは内容を企画する地域包括支援センターによりその都度決定されます。そのため、具体的な目的は開催毎に変化しますが、地域の共通課題や『地域ケア会議』のテーマと連動し、その課題の解決に向けた検討・共有を行う場とされています。

#### ②『小地域ケア会議』の運営

##### 『小地域ケア会議』の開催テーマ設定

『小地域ケア会議』の開催テーマは、保険者(基幹型地域包括支援センター)主催の『地域ケア会議』と連動しテーマを決定しています。そのため、保険者(基幹型地域包括支援センター)が主催し地域包括支援センターの管理者が集まる毎月の会議(「管理者会議」)において、『地域ケア会議』のテーマの方向性が保険者(基幹型地域包括支援センター)から提示され、その開催内容やテーマに関する方針を踏まえて、小地域ケア会議のテーマを設定しています。

##### 『小地域ケア会議』の開催規模と運営の事務局

『小地域ケア会議』は年3回、委託型地域包括支援センター6か所が東西3カ所ずつに分かれ協力して運営します。保険者(基幹型地域包括支援センター)と地域包括支援センター管理者の打ち合わせによる開催テーマ決定後、3地域包括支援センターの『小地域ケア会議』担当者が集まり、事務作業の割り振りや参加者の選定、具体的な開催内容などの企画を行います。

##### 会議の流れ～会議冒頭の目的共有～

『小地域ケア会議』の冒頭で、毎回地域包括支援センター職員から参加者に対して、『小地域ケア会議』の位置づけや、開催の目的・趣旨を説明し、認識の共有を図っています。

#### 実施者コメント

保険者から強制されたわけではなく、地域包括支援センター職員自ら行っています。これにより、地域ケア会議を知らない参加者も会議の意義をつかみやすくなっています。

『小地域ケア会議』の形式としては具体的な事例を題材にして地域課題に対して意見交換を行うグループワークを行うことが多くあります。その際に必要となる個別事例は、それぞれの地域包括支援センターで担当した事例の中から持ち寄り、事前の3センターの打ち合わせにより決定します。

会議当日は40名ほどの参加者をいくつかのグループに分け、地域包括支援センター職員や居宅介護事業所の主任介護支援専門員などがファシリテーターを務め、グループワークを進めます。

#### 委員会コメント

参加者が多い場合は、全員が発言しやすい6人～8人のグループワークが効果的です。事例検討を通して、参加者に何を考えてもらうのか、会議後にどのような行動を期待するのかなど、事前に地域ケア会議の「目標」や「進め方」をファシリテーター役の職員が話し合っておく必要があります。

**国分寺市西ブロック 平成25年度 第2回 小地域ケア会議**

日時：平成25年10月23日(水) 13:30～15:30  
場所：ひかりプラザ 2階 203・204号室

- 1 開会・本会の趣旨説明
- 2 事例紹介
- 3 グループワーク  
  - <話し合うテーマ>
  - ・生活課題はどのようなものがあるか。
  - ・認知症になっても地域で安心して暮らし続けるためには、どのような支援が必要か、介護保険制度以外にどのような手助けが必要か。
- 4 グループワーク内容発表
- 5 情報交換他
- 6 アンケート記入
- 7 閉会

小地域ケア会議の位置づけ：地域課題の扱い上げ

- ◆ 小地域ケア会議は市内2カ所で開催

東部地区 主催：地域包括支援センターちとまち・ほんだ・こいがくほ

西部地区 主催：地域包括支援センターひかり・なみさ・ひよし

- ◆ 内容は地域特性に合わせ企画

予定している主な内容：情報提供・交換、事例紹介(検討)、研修会  
 地域ケア会議等の報告

実際内容は地域ケア会議に報告 → 目的：地域課題を市全体の認識とする